

三〇九人が新たな仲間

新体育館で同窓会入会式

平成二十一年度の同窓会入会式は、卒業式前日の二月二十八日、新たな会員三百九名を迎えて、小国輝也氏（昭和57年卒）の司会のもと新装なった本校体育館で開かれた。

豊口祐一同窓会長が「同窓生は県内外だけでなく世界各地で、多くの分野で大きな足跡を残している。みなさんは、

今後とも勉学の道に励まれると思うが、これまでの努力の成果を一層活かすことが大切である。学生の本分は勉強である。黙っていても時間は過ぎて行く。あとで後悔しないよう努力を続けてほしい。これからもいろいろなことに遭遇すると思うが、どんな場面に



あっても努力することによって克服できると考えている。人間にとって一番の幸せは、

目標に向かって努力する過程にあると思う。これからはそれぞれに歩む人生に向かって、いつそう邁進して下さるよう期待している」と歓迎の挨拶をした。

続いて秋田大学医学部総合地域医療推進学講座寄附講座教授の長谷川仁志氏（昭和57年卒）が先輩としての激励のことばを述べ、新入会員に三浦廣巳同窓会副会長（昭和44年卒）から記念品（携帯ストラップ）が贈られた。

それを受けて、生徒を代表

して越中谷優一さんが「伝統ある秋田高校の同窓会員になることに大きな誇りと喜びがあり、各界で活躍している先輩たちのあとに続くことに大きな責任を感じる。私自身もさらなる精進をして先輩たちに追いついて行かなければと思うと、身が引き締まる気持ちでいっぱいだ。私たちは、まだ未熟だが、高校のさらなる発展のため、そして誇りある同窓生となるその日までご指導を願います」と新入会のことばを述べた。

ご卒業おめでとうございます。本日は、記念すべき新しい体育館での最初の行事にお話しさせていただき本当に光栄です。これまでの日本には、先進諸國中、最も少子化対策への投資を行ってこなかった等、様々な問題が山積しております。他国に例を見ない極端な少子・高齢社会を支えながら改革していく皆さんの活躍は日本にとって最重要事項であり、先輩の責任として少しでも皆さんのためになるような激励のお話ができればと思います。

一、これからの日本を支える社会人としての質の要素とは？—社会人はどう評価されていくか—

高校生の皆さんは、主に学力中心に評価されることが多かったと思います。大学入試もそうであり、この点で皆さんも全国トップクラスです。しかし、是非、強調しておきたいのは、これが

日本の将来をささえる
秋高生のみなさんへ

長谷川仁志
(昭和57年卒)



ら大学生や社会人として必要とされる評価されるのは、学力やそれに対する姿勢・努力も大切ですが、それ以上に人間力（コミュニケーション力、気力、実践力、知力、体力の総合的能力）や教育力が重要視されるようになってきています。これからの社会で求められるのは、学力やそれに対する姿勢・努力も大切ですが、それ以上に人間力（コミュニケーション力、気力、実践力、知力、体力の総合的能力）や教育力が重要視されるようになってきています。これからの社会で求められるのは、学力やそれに対する姿勢・努力も大切ですが、それ以上に人間力（コミュニケーション力、気力、実践力、知力、体力の総合的能力）や教育力が重要視されるようになってきています。

人間力と教育力を育成して 自分の可能性を広げよう

れてくることです。そして、それらは自分の可能性を導き出すために重要な要素であります。また、どんな分野・場面においても、パートナーシップを持って人を元気づけ動機付けし、その方の生涯の姿勢を

二、人間力と教育力の連鎖が個々の能力・人生を充実させ、秋田・日本・世界を救う。

大学卒業までに習得した個々の人間力・教育力は、個人にとって最高の財産になるでしょう。さらに、例

え活躍の場がどこであろうとも、個人にとって最高の財産は、母校にとっても財産になります。そして、それは直接的・間接的に県の財産となり、国の財産となり、世界の財産になっていくのです。さて習得した人間力や教育力をもって人に接するのどのくらいの費用がかかるでしょうか。ほんのちよつとした心がけとこの繰り返しですが、あらゆる場面で生涯かけがえのないものにつながっていくと考えて進みましょう。自分のため、結果として母校・日本・世界のために、自らの人間力・教育力を育成し、それを連鎖していくためにこれからの学生時代・社会人時代どう過ごしていくか？日々、このことを真剣に考え、様々な出会いや日々の活動を大切に目的意識を持って計画的に過ごしていきたいでしょう。